

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月12日

【四半期会計期間】 第130期第1四半期(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

【会社名】 株式会社宮崎銀行

【英訳名】 The Miyazaki Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 小池 光一

【本店の所在の場所】 宮崎県宮崎市橘通東四丁目3番5号

【電話番号】 宮崎(0985)27 3131(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画部長兼収益管理室長 関本 泰三

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋室町四丁目6番2号 菱華ビル内  
株式会社宮崎銀行 経営企画部 東京事務所

【電話番号】 東京(03)3241 5131

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 渡邊 友樹

【縦覧に供する場所】 株式会社宮崎銀行 東京支店  
(東京都中央区日本橋室町四丁目6番2号)  
株式会社宮崎銀行 大阪支店  
(大阪市中央区瓦町三丁目1番12号)  
株式会社宮崎銀行 福岡支店  
(福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号)  
株式会社宮崎銀行 鹿児島営業部  
(鹿児島市山之口町12番9号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

(注) 東京支店、大阪支店、福岡支店及び鹿児島営業部は金融商品取引法の規定による縦覧場所ではありませんが、投資者の便宜のため縦覧に供する場所としております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		平成25年度 第1四半期 連結累計期間	平成26年度 第1四半期 連結累計期間	平成25年度
		(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
経常収益	百万円	13,012	12,675	48,291
経常利益	百万円	3,779	2,675	10,631
四半期純利益	百万円	2,499	1,496	
当期純利益	百万円			6,876
四半期包括利益	百万円	259	3,859	
包括利益	百万円			7,234
純資産額	百万円	114,374	119,878	118,423
総資産額	百万円	2,246,692	2,444,460	2,342,793
1株当たり四半期純利益金額	円	14.28	8.76	
1株当たり当期純利益金額	円			40.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円		8.75	
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	円			39.97
自己資本比率	%	4.83	4.64	4.79

- (注) 1 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 2 1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
- 3 平成25年度第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。
- 4 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権 - (四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部合計で除して算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行および当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、関係会社についても、異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、当四半期連結累計期間での重要な変更は該当ありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当ありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

業績の状況

(経営成績)

経常収益は、貸出金利息の増加により資金運用収益が増加しましたが、貸倒引当金戻入益の減少によりその他経常収益が減少したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ337百万円減少して12,675百万円となりました。一方、経常費用は、貸倒引当金繰入額の増加によりその他経常費用が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ768百万円増加して10,000百万円となりました。以上により、経常利益は、前第1四半期連結累計期間に比べ1,104百万円減少して2,675百万円となり、四半期純利益は、同1,003百万円減少して1,496百万円となりました。

セグメントの業績は、次の通りであります。

銀行業（銀行業務）

経常収益は、貸出金利息の増加により資金運用収益が増加しましたが、貸倒引当金戻入益の減少によりその他経常収益が減少したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ296百万円減少して11,268百万円となりました。一方、経常費用は、貸倒引当金繰入額の増加によりその他経常費用が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ752百万円増加して8,737百万円となりました。以上により、経常利益は、前第1四半期連結累計期間に比べ1,048百万円減少して2,530百万円となりました。

リース業（リース業務）

経常収益は、前第1四半期連結累計期間に比べほぼ横這いの1,362百万円となりました。経常利益は、貸倒引当金繰入額が増加したことから同54百万円減少して4百万円となりました。

その他（信用保証業務等）

経常収益は、前第1四半期連結累計期間に比べほぼ横這いの264百万円となり、経常利益も、同ほぼ横ばいの142百万円となりました。

(財政状態)

当第1四半期連結会計期間末（平成26年6月30日）における財政状態につきましては、総資産額は前連結会計年度末に比べ1,017億円増加して2兆4,444億円、純資産額は同14億円増加して1,198億円となりました。

主要な勘定科目につきましては、貸出金は、法人貸出が減少したことから、前連結会計年度末に比べ23億円減少して1兆5,423億円、有価証券は国債を中心に同466億円増加して7,263億円、預金・譲渡性預金は個人預金、法人預金、公共預金ともに増加したことから、同843億円増加して2兆1,612億円となりました。

## 国内業務部門・国際業務部門別収支

資金運用収益は、貸出金利息が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ189百万円増加して8,316百万円となりました。一方、資金調達費用は、同ほぼ横這いの477百万円となりました。その結果、資金運用収支は、同185百万円増加して7,838百万円となりました。

役務取引等収支は、支払ローン関係手数料が増加したことから、前第1四半期連結累計期間に比べ106百万円減少して1,094百万円となりました。

その他業務収支は、前第1四半期連結累計期間に比べ26百万円減少して345百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	7,554	98		7,653
	当第1四半期連結累計期間	7,618	219		7,838
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	8,026	107	6	8,127
	当第1四半期連結累計期間	8,091	235	11	8,316
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	472	8	6	473
	当第1四半期連結累計期間	472	16	11	477
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	1,194	6		1,200
	当第1四半期連結累計期間	1,088	6		1,094
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,942	9		1,951
	当第1四半期連結累計期間	1,907	10		1,918
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	747	3		750
	当第1四半期連結累計期間	819	4		823
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	366	5		371
	当第1四半期連結累計期間	331	13		345
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	1,690	5		1,695
	当第1四半期連結累計期間	1,517	14		1,531
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	1,323			1,323
	当第1四半期連結累計期間	1,185	0		1,186

(注) 1 「国内業務部門」は国内店の円建取引並びに子会社の取引、「国際業務部門」は国内店の外貨建取引であります。

ただし、円建対非居住者取引等は、「国際業務部門」に含めております。

2 「相殺消去額( )」は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借利息であります。

3 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間0百万円、当第1四半期連結累計期間1百万円)を控除して表示しております。

国内業務部門・国際業務部門別役務取引の状況

役務取引等収益は、預り資産販売手数料の減少等により、前第1四半期連結累計期間に比べ33百万円減少して1,918百万円となりました。役務取引等費用は、支払ローン手数料の増加等により、同73百万円増加して823百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	1,942	9	1,951
	当第1四半期連結累計期間	1,907	10	1,918
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	795		795
	当第1四半期連結累計期間	791		791
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	516	9	526
	当第1四半期連結累計期間	518	10	528
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	310		310
	当第1四半期連結累計期間	285		285
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	212		212
	当第1四半期連結累計期間	202		202
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	747	3	750
	当第1四半期連結累計期間	819	4	823
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	97	3	100
	当第1四半期連結累計期間	96	4	100

(注) 「国内業務部門」は国内店の円建取引、「国際業務部門」は国内店の外貨建取引であります。

国内業務部門・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	1,869,548	3,196	1,872,744
	当第1四半期連結会計期間	1,950,889	2,509	1,953,399
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	1,222,889		1,222,889
	当第1四半期連結会計期間	1,254,072		1,254,072
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	633,528		633,528
	当第1四半期連結会計期間	667,795		667,795
うちその他	前第1四半期連結会計期間	13,131	3,196	16,327
	当第1四半期連結会計期間	29,021	2,509	31,531
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間	178,661		178,661
	当第1四半期連結会計期間	207,850		207,850
総合計	前第1四半期連結会計期間	2,048,210	3,196	2,051,406
	当第1四半期連結会計期間	2,158,739	2,509	2,161,249

(注) 1 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

2 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

3 「国内業務部門」は国内店の円建取引、「国際業務部門」は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は「国際業務部門」に含めております。

貸出金残高の状況

業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,433,561	100.00	1,542,355	100.00
製造業	118,489	8.27	117,992	7.65
農業、林業	23,974	1.67	23,671	1.54
漁業	2,766	0.19	2,858	0.19
鉱業、採石業、砂利採取業	1,155	0.08	1,001	0.07
建設業	30,652	2.14	33,176	2.15
電気・ガス・熱供給・水道業	37,708	2.63	46,796	3.03
情報通信業	8,974	0.63	8,854	0.57
運輸業、郵便業	35,832	2.50	37,146	2.41
卸売業、小売業	115,113	8.03	124,029	8.04
金融業、保険業	40,784	2.84	45,338	2.94
不動産業、物品賃貸業	193,648	13.51	221,492	14.36
学術研究、専門・技術サービス業	3,871	0.27	3,894	0.25
宿泊業、飲食サービス業	18,089	1.26	17,748	1.15
生活関連サービス業、娯楽業	19,212	1.34	19,273	1.25
教育、学習支援業	7,271	0.51	7,993	0.52
医療、福祉	130,775	9.12	139,160	9.02
その他サービス業	25,618	1.79	28,536	1.85
地方公共団体	256,863	17.92	270,110	17.51
その他	362,767	25.30	393,288	25.50
特別国際金融取引勘定分				
政府等				
その他				
合計	1,433,561		1,542,355	

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	297,100,000
計	297,100,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月12日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	176,334,000	同左	東京証券取引所市場第一部 福岡証券取引所	単元株式数は 1,000株であり ます。
計	176,334,000	同左		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日		176,334		14,697		8,771

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,521,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式169,602,000	169,602	
単元未満株式	普通株式 1,211,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	176,334,000		
総株主の議決権		169,602	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ1,000株(議決権1個)及び700株含まれております。

2 「単元未満株式」には、当行所有の自己株式702株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 宮崎銀行	宮崎市橘通東 四丁目3番5号	5,521,000		5,521,000	3.13
計		5,521,000		5,521,000	3.13

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)及び第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	68,925	114,901
コールローン及び買入手形	282	10,278
買入金銭債権	281	268
商品有価証券	-	0
金銭の信託	8,000	10,082
有価証券	679,717	726,376
貸出金	1,544,694	1,542,355
外国為替	1,155	1,318
リース債権及びリース投資資産	9,328	9,143
その他資産	11,276	11,845
有形固定資産	22,561	22,725
無形固定資産	2,828	2,555
繰延税金資産	1,298	1,065
支払承諾見返	3,829	3,610
貸倒引当金	11,383	12,061
投資損失引当金	3	3
資産の部合計	2,342,793	2,444,460
<b>負債の部</b>		
預金	1,926,546	1,953,399
譲渡性預金	150,450	207,850
コールマネー及び売渡手形	63,146	5,068
債券貸借取引受入担保金	13,287	88,142
借入金	15,693	12,309
外国為替	29	29
社債	27,000	27,000
その他負債	10,153	10,722
役員賞与引当金	30	-
退職給付に係る負債	10,890	13,167
役員退職慰労引当金	12	6
睡眠預金払戻損失引当金	313	294
偶発損失引当金	188	185
再評価に係る繰延税金負債	2,799	2,796
支払承諾	3,829	3,610
負債の部合計	2,224,370	2,324,582
<b>純資産の部</b>		
資本金	14,697	14,697
資本剰余金	8,795	8,793
利益剰余金	75,381	74,468
自己株式	1,706	1,696
株主資本合計	97,167	96,263
その他有価証券評価差額金	14,894	16,978
土地再評価差額金	2,756	2,756
退職給付に係る調整累計額	2,560	2,369
その他の包括利益累計額合計	15,090	17,364
新株予約権	29	30
少数株主持分	6,135	6,219
純資産の部合計	118,423	119,878
負債及び純資産の部合計	2,342,793	2,444,460

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
経常収益	13,012	12,675
資金運用収益	8,127	8,316
(うち貸出金利息)	6,002	6,127
(うち有価証券利息配当金)	2,107	2,167
役務取引等収益	1,951	1,918
その他業務収益	1,695	1,531
その他経常収益	<sup>1</sup> 1,238	<sup>1</sup> 908
経常費用	9,232	10,000
資金調達費用	474	479
(うち預金利息)	162	165
役務取引等費用	750	823
その他業務費用	1,323	1,186
営業経費	6,637	6,772
その他経常費用	<sup>2</sup> 46	<sup>2</sup> 738
経常利益	3,779	2,675
特別利益	-	6
固定資産処分益	-	6
特別損失	0	8
固定資産処分損	0	8
税金等調整前四半期純利益	3,779	2,673
法人税、住民税及び事業税	354	1,216
法人税等調整額	803	128
法人税等合計	1,157	1,087
少数株主損益調整前四半期純利益	2,621	1,585
少数株主利益	122	89
四半期純利益	2,499	1,496

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,621	1,585
その他の包括利益	2,880	2,273
<del>その他有価証券評価差額金</del>	2,880	2,083
退職給付に係る調整額	-	190
四半期包括利益	259	3,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	380	3,770
少数株主に係る四半期包括利益	121	88

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を単一割引率から単一加重平均割引率(デュレーションアプローチ)へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が2,670百万円増加し、利益剰余金が1,725百万円減少しております。なお、当第1四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 税金費用の処理

連結子会社の税金費用は、当第1四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
破綻先債権額	496百万円	487百万円
延滞債権額	27,461百万円	28,546百万円
3ヵ月以上延滞債権額	百万円	百万円
貸出条件緩和債権額	14,356百万円	13,513百万円
合計額	42,314百万円	42,548百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
貸倒引当金戻入益	421百万円	百万円
株式等売却益	114百万円	343百万円
償却債権取立益	132百万円	67百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
貸倒引当金繰入額	百万円	678百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	593百万円	576百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	528	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	683	4.00	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合 計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	11,544	1,307	12,851	161	13,012	-	13,012
セグメント間の内部経常収益	19	84	104	105	209	209	
計	11,564	1,391	12,955	266	13,222	209	13,012
セグメント利益	3,578	58	3,636	145	3,782	2	3,779

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務等を含んでおります。  
 3 セグメント利益の調整額 2百万円は、セグメント間取引消去 2百万円であります。  
 4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合 計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	11,248	1,286	12,535	140	12,675	-	12,675
セグメント間の内部経常収益	19	76	96	124	220	220	
計	11,268	1,362	12,631	264	12,895	220	12,675
セグメント利益	2,530	4	2,535	142	2,678	2	2,675

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務等を含んでおります。  
 3 セグメント利益の調整額 2百万円は、セグメント間取引消去 2百万円であります。  
 4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	14.28	8.76
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	2,499	1,496
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る四半期純利益	百万円	2,499	1,496
普通株式の期中平均株式数	千株	175,013	170,812
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円		8.75
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円		
普通株式増加数	千株		116
うち新株予約権	千株		116
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要			

(注) なお、前第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。



## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月7日

株式会社 宮 崎 銀 行  
取 締 役 会 御 中

### 有限責任監査法人 ト ー マ ツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	青	野	弘
--------------------	-------	---	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	只	隈	洋 一
--------------------	-------	---	---	-----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	城	戸	昭 博
--------------------	-------	---	---	-----

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社宮崎銀行の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社宮崎銀行及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。